様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：２３３０２
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2023～2024
課題番号：２３Ｋ１８６３１

研究課題名（和文）西田『善の研究』前後の新資料からみた自由論　その形成の背景と発展の可能性

研究課題名（英文）Study of Kitaro Nishida's Theory of Freedom, Employing Recently Discovered Materials as Clues

研究代表者
中嶋　優太（Nakajima, Yuta）

石川県立看護大学・看護学部・講師

研究者番号：５０９７６１３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では近年発見された新資料を用いて、西田幾多郎『善の研究』における自由論の研究に取り組んだ。『善の研究』のうち、倫理を扱う第3編はもともと講義ノートとして作成されたものであるが、その前後の講義ノートや講義録、思索ノートなどが残されている。これらの新資料を用いることで、刊行された『善の研究』では十分に展開されていなかった西田の自由論構想の全体像を浮かび上がらせることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
『善の研究』第3編のもととなる四高での倫理講義（1906年）の後に、京都大学で行われた倫理学講義の講義ノートや、それ以前の思索ノートを用いることで、西田の自由論が東洋的な思想伝統を背景に形成されてきたこと、また1906年以降に、ベルクソンやJ.M.ギュイヨーなどの思想を取り入れるなどして、自身の自由論を洗練させようとしていたことが明らかになった。西田と東洋的な思想伝統との関係については文献的な証拠が乏しく、この点を、新資料によって補える可能性を示したことは大きな意味を持つ。また、従来、注目されてこなかった西田の自由論が豊かな可能性を持つことを示すことができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, I used recently discovered materials to research the theory of freedom in Kitaro Nishida's An Inquiry into the Good. Part 3 of An Inquiry into the Good, which deals with ethics, was originally written as lecture notes. However, lecture notes, lecture transcripts, and research notes from before and after the lecture have been left behind. Using these new materials, I attempted to reveal the full scope of Nishida's theory of freedom, which was not fully developed in the published version of An Inquiry into the Good.

研究分野：日本哲学

キーワード：日本哲学　西田幾多郎　新資料　善の研究　自由　ベルクソン

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の背景には、従来の研究における①西田哲学の東洋的背景への関心の高さと②『善の研究』の自由論に対する評価の低さ、という二つの研究状況と、③新資料の発見という新しい事情がある。

①西田幾多郎を西洋哲学に学びながらも独自の哲学を形成した思想家として評価する際、その独自性の由来の一つとして東洋的な思想背景を見ようとする強い関心と期待が、国内外の日本哲学史研究者の間にはある。しかし、西田自身はあくまでも哲学者として論文を執筆しており、その刊行論文の中で専門外の東洋思想が主題的に論じられることは少ない。そのため、西田哲学が東洋思想的背景を持つことを指し示す根拠は、資料的には乏しい状態にあった。

②これまでの研究では『善の研究』の自由論は独創的なものとして高く評価されてきたわけではない。『善の研究』の「第 3 編善」は教科書的な内容とみられて、他の編に比べても西田の独創性が少ないと考えられてきたし、とりわけ自由論は単に自由と必然に関する西洋倫理学の既成の議論を検討したものであって、「とくに精彩のあるものではない 」[氣多雅子『西田幾多郎『善の研究』』晃洋書房、2011 年、82 頁]とさえ評される。

③しかし、2015 年以降、講義ノート、思索ノートを含む西田の直筆資料が大量に発見され、これらの刊行を前提としていない直筆資料では、東洋思想に由来する概念も躊躇なく使用されていた。また、それらの新資料の多くは『善の研究』成立前後の倫理学的なテーマを扱うものが多く、『善の研究』の自由論を再考する手掛かりとなることが期待できた。

２．研究の目的

本研究の目的は新資料の調査・分析を通して、『善の研究』の自由論の東洋思想的背景と洗練・拡張の構想を確認することで、刊行された『善の研究』の自由論の不十分な議論をおぎなって、自由論構想の全体像を描いて、その思想的可能性を考察することである。

『善の研究』自由論が東洋的背景を持つ西田の独創的な思想であるなら、自由論が西洋倫理学の定番の話題であることはむしろその思想が作用する領域の広さを示している。自由は、現代の倫理学においても、理論的に、また応用的に（生命倫理学など）重要なテーマでありつづけている。西田の独創的な倫理学を自由という観点から捉えることは、西洋倫理学の研究蓄積と一層かみ合う形で西田倫理学の研究を展開することを可能にし、現代的問題への西田哲学の適用の可能性を広げるものである。

３．研究の方法

本研究では思想内容の分析②、その前提となる新資料調査①を行う。

①新資料の調査：2015 年 11 月に西田幾多郎の遺族から石川県西田幾多郎記念哲学館（以下、哲学館）に直筆ノート 50 冊とノート状に綴じられていない資料 250 点が寄託された。その後、哲学館で資料の修復と翻刻が行われ、一部のノートの翻刻が西田幾多郎全集別巻として刊行されたほか、翻刻・資料調査の成果が年次の報告書及びウェブ上のデータベースで公開された。本研究では、これらの哲学館で調査済みの講義ノート、思索ノート、読書ノートについて再分析を加えるとともに、未調査資料を調査し、必要に応じて、撮影・翻刻を行った。

②思想分析：哲学館調査済み資料の再分析と新たに調査・翻刻した資料の分析をもとに、自由論の形成プロセスと洗練・拡張の構想を行った。

４．研究成果

2023 年度の研究では第一に新資料の調査を行い、石川県西田幾多郎記念哲学館に所蔵されている、未調査の冊子「実在及道徳論」についてすべてのページの高精細写真撮影を行い、調査を開始した。この冊子は『善の研究』の形成に関係している冊子「西田氏実在論及び倫理学」（金沢大学図書館蔵）と類似しているが、使用される活字等を比較した結果、版が異なることが判明した。『善の研究』形成のプロセスをたどるための資料が一つ増えたことになる。蔵書印から、この冊子「実在及道徳論」は西田幾多郎が第四高等学校教授時代に教えた原康次郎が所有していたことが明らかになっている。

第二に、西田哲学館ですでに整理されていた新資料について追加の調査を行った。その一環として西田幾多郎が四高教授時代に教えた論理の講義ノートを翻刻し、公表した（「「論理講義ノート」(A08:29-88)」『西田幾多郎未公開資料の研究資料化　報告７』石川県西田幾多郎記念哲学館、2024 年 3 月）。以前から四高での心理講義に W.ヴントの影響があることは知られており、また、新資料『倫理学講義ノート』からは、倫理講義への影響も見て取ることができるが、さらに、論理講義においても W.ヴントの『論理学』が踏まえられていることが明らかになった。

第三に、すでに公開されている新資料（特に「倫理学講義ノート」『西田幾多郎全集　別巻』）について思想内容の分析を行い、西田が『善の研究』の自由論をどのような方向へ洗練・拡張しようとしたかを探った。その研究の成果の一部は、「若き西田幾多郎の生の倫理　新資料「倫理学講義ノート」におけるギュイヨー受容」（『哲学研究』第 611 号、京都哲学会、2024 年 2 月）

として発表した。

2024 年度の研究では第一に、前年度に高精細写真撮影を行った冊子「実在及道徳論」の内容の調査を行った。他のバージョンとの比較作業は年度末までに終わらなかった部分もあるが、冊子への書き込みの調査はすべて終了した。書き込みからは、西田が 1907 年の講義中に学生に向けて語っていた内容が、その後の『善の研究』の刊行時に本文に採用されるなど、『善の研究』の成立過程を探る手掛かりが見いだされた。

第二に、高岡市中央図書館に所蔵されている「第四高等学校教授西田幾多郎述倫理学講義録大橋八郎筆耕」について調査をし、高精細撮影を行った。この資料は西田幾多郎の四高倫理講義を受講した大橋八郎が作成したとみられるノートである。『善の研究』「第三編　善」も四高で 1906 年 9 月から開始した倫理講義と考えられるが、大橋ノートはその前年のノートと見られる。1905 年講義については、西田自身の直筆講義ノートが存在し、「倫理学草案　第二」と呼ばれている。調査の結果、大橋ノートには「倫理学草案　第二」とは異なる内容が含まれ、西田が複数のノートを用いて実際の講義を行なっていたことなどが推察される。

第三に、これまでの資料調査をもとに、西田の自由論の再構成を行うとともに、その現代的に意味、とりわけ医療現場での応用について考察し、その成果の一部をパネル「日本の文化伝統を「医学哲学」に導入する試み―21 世紀の医療倫理の新たな枠組みの構築のために―」内の報告「西田『善の研究』における必然的自由論の東洋的側面と医療倫理への適用可能性」（第 43 回日本医学哲学・倫理学会大会、2024 年 11 月 3 日）として発表した。

第四に、これまでの資料調査を踏まえ、西田の新資料研究の現状についてまとめ、「西田幾多郎新資料研究の現在」（「西田幾多郎没後八十周年記念シンポジウム」京都大学、2025 年 1 月 25 日）として報告した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 中嶋 優太	４．巻 611
２．論文標題 若き西田幾多郎の生の倫理 --新資料「倫理学講義ノート」におけるギュイヨー受容--	５．発行年 2024年
３．雑誌名 哲學研究	６．最初と最後の頁 57～79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/JPS_611_57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 森下直貴、山本伸裕、服部圭祐、中嶋優太
２．発表標題 日本の文化伝統を「医学哲学」に導入する試み －21 世紀の医療倫理の新たな枠組みの構築のために－
３．学会等名 日本医学哲学・倫理学会
４．発表年 2024年

１．発表者名 中嶋優太
２．発表標題 西田幾多郎新資料研究の現在
３．学会等名 西田幾多郎没後八十周年記念シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2025年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関